

## 平成30年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 生徒の「社会と調和し自立して生きる力」を育み、地域から信頼される学校

布施北高校は生徒に以下の力をつけるために、多様な学びを実践し、地元保・幼・小・中・大学、企業・施設など関係諸機関と連携を深め、地域の組織・人材を活用して大阪府でもっとも進んだキャリア教育を行うことで、総合的な「学校力」を高めて、生徒一人ひとりが「入って良かった」と思える学校づくりを実現します。

- (1) 自己を高める力・・・確かな学力(読み・書き・計算・表現力)を育み、ねばり強さと未来に希望を持つ志を養います。
- (2) 人とつながる力・・・人とつながる喜びを知り、周囲と協力し合う力を養います。
- (3) 社会に貢献する力・・・地域・社会に貢献しようとする意欲と実行力を養います。

## 2 中期的目標

## 1 学習活動の充実

- (1) 普通科・デュアル総合学科・エンパワメントスクールそれぞれの特徴を踏まえ、「わかる授業づくり」「魅力ある授業づくり」に向けて、全教員が授業力向上に取り組む。
- (2) 3学科の教科学習活動の充実、及びデュアル総合学科・エンパワメントスクールにおける実習や教科設定科目の学習内容それぞれの充実を図る。  
\* 学校教育自己診断における生徒の授業満足度(平成29年度49.5%)を2019年度55%以上→2020年度55%以上を継続する。

## 2 人権教育を基盤とした魅力ある学校づくり

- (1) 生徒一人ひとりを大切にする生徒指導を通じて、生徒の規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立を図り、中途退学及び原級留置を防止する。  
\* 中途退学率(平成29年度8.8%)を2019年度8%以下→2020年度8%以下を継続する。
- (2) 生徒が安心して学校生活を送れるよう、保護者との連携・協力体制を強め、担任・学年団と生徒指導部が連帯して、計画的・組織的に面談、家庭訪問をはじめ日々の連絡強化に努める。
- (3) 各中学校との連携を密にし、個々の生徒指導に活かす。
- (4) スクールカウンセラー(SC)及びスクールソーシャルワーカー(SSW)との連携を強め、教育相談体制を充実させるとともに、支援が必要な生徒の状況を共有し、各分掌・学年と連携してケース会議を開くなど、積極的に生徒支援を行う。
- (5) 生徒会活動や特別活動、学校行事を通じて仲間づくりや生徒の自己有用感を高め、学校・学年・学級への帰属意識を醸成する。
- (6) 全教職員が同和教育をはじめとした人権教育の理念を学び、尊重して共通理解を深め、すべての教育活動の中に人権教育を位置づけ、教育実践への反映に努めることにより人権教育を推進する。
- (7) 多数の中国等帰国生徒や外国人生徒が在籍する学校として、学習の保障と進路保障に向けての支援を行うとともに、多文化共生教育を推進し、「ともに学ぶ」学校づくりを進める。

## 3 キャリア教育・進路指導の充実

- (1) 三年間を見通したキャリア教育(勤労観・職業観を養い、将来の自分の生き方について展望を持つための働きかけ)を積極的に進める。
- (2) 学ぶこと、働くこと、自分らしく生きることの大切さを理解し、自己肯定感や勤労観・職業観を育むことができるよう、発達段階に応じた系統的・継続的なキャリア教育・進路指導を実践する。
- (3) インターンシップやデュアル実習を通して地域を中心とした事業所・施設・教育機関等との連携を強化し、ともに次の世代を育てることにつながり、学び合い、助け合いながら組織としての成長を図る。  
\* 進路決定率(平成29年度81.6%)を2019年度に全国平均(平成24年度94.4%)以上→2020年度全国平均以上を継続する。

## 4 エンパワメントスクールへの改編期の3学科の教育活動の充実と完成期へ向けての積極的な情報発信

- (1) エンパワメントスクールへの改編期における3学科の教育活動を等しく充実させるように、教職員が一丸となって取り組む。  
\* 学校教育自己診断の生徒学校生活満足度(平成29年度58.1%)を2019年度に90%以上→2020年度90%以上を継続する。
- (2) デュアル総合学科のデュアル実習を充実させ、さらにエンパワメントスクールのインターンシップやデュアル実習においても生徒の増加に対応して実習先を開拓し地域との連携を深め、実習を通して社会で活躍する意欲や態度を育成する。  
\* デュアル実習の満足度(平成29年度83.3%)を2019年度85%以上→2020年度90%以上。  
\* 学校教育自己診断の生徒の将来の進路関係の項目肯定的評価(平成29年度70.6%)を2020年度75%以上にする。
- (3) デュアルシステムをはじめとした学校のさまざまな取り組みや情報を保護者、中学校、地域、府民に向けて発信し、学校イメージの向上を図るとともに、改編後の学校の教育内容や学校の魅力等について積極的に情報発信する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校運営協議会からの意見
<p><b>【生徒】</b>・回答数は減少した(487→491名)。 ・4点満点に換算したポイント(P)の数値22設問(25問中)でポイントが上昇し、総平均も上昇した。(2.84P→2.68P) ・評価の高い設問は「22 この学校にはデュアルシステムをはじめ、他の学校にない特色がある」(3.26P)「7 生徒の興味・関心・適性・進路に応じて選択科目が選べる。」(3.12P)で、低い設問は「19 先生は、お互いに協力し合っている。」「24 授業や部活動などで、保護者や地域の人とかかわる機会がある。」(2.48P)、であった。 ・減少した設問は「19 先生は、お互いに協力し合っている。」(-0.31)、「授業や部活動などで、保護者や地域の人とかかわる機会がある。」(-0.04)であった。</p> <p><b>【保護者】</b>・回答数はやや減少した(126→140名)。 ・4点満点換算ポイント(P)の数値で1設問を除く14設問でポイントが上昇し、総平均も上昇した。(3.08←3.26P) ・評価の高い設問は「19 デュアルシステムの実習などは子どもにとってよい経験になると思う。」(3.45P)、「18 学校は、外国にルーツのある生徒やその保護者に対して十分に支援している。」(3.40P)で、低い設問は「12 布施北高校のホームページを見ることがある。」(2.54P)「11 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(2.71P)であった。 ・評価上昇の大きい設問は「3 子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている。」(+0.17P)、「1 子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。」(+0.14P)であった。 ・減少は「14 学校は、自分の生き方を考え豊かな心を持った子どもを育てようとしている。」(-0.12)「11 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」であった。「11」はポイントが高いが減少しているのでPR活動を進めなければならない。</p> <p><b>【教職員】</b>・回答数はほぼ変化ない(67←69名)。4点満点換算P総平均はやや下降した。(2.72←2.81P) ・「デュアルシステム、地域連携」「いじめ対応」「キャリア教育」の設問の評価が高く、「校内人事、分掌分担」「学校運営への意見反映」の設問の評価が低い。 ・改編期であり通常の業務に加えて改編業務が加わっていることで過負荷になっている。完成期に向けて業務分担や意見交換を進め意欲を高める工夫が必要である。</p>	<p><b>第1回(6/30)</b> ・授業満足度を上げるために、学びなおしのための、わかりやすい授業が大切である。授業の満足度を高め、進路決定率を上げることが、布施北高校の特色に繋がる。 ・布施北高校の特色であるデュアル実習等を通して、「望ましい勤労観」を育てるためのキャリア教育にしっかり取り組んでほしい。そのための地域連携をますます進めてほしい。 ・生徒支援の為に、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用したケース会議をどのように実施しているのかを知りたい。 ・遅刻・欠席を減らす指導を継続し、中退予防に繋げてほしい。</p> <p><b>第2回(11/17)</b>(デュアルエンパワメント発表会について) ・自信を持って堂々と発表している生徒を見て、素晴らしいと感じた。 ・単にプレゼンテーションがうまくいったというだけではなく、自分たちの生き方等を調べていてよかった ・エンパワメントスクールの授業等の特長についても発表があり、よくわかった。 ・学びなおしで1年生のときは授業についていけても、2年生になると難しくなるのが課題ではないか。 ・実習先としてこれだけの協力企業があるのは布施北高校の強みである。</p> <p><b>臨時協議会(1/16)</b>(デュアル実習について) ・布施北高校はデュアルシステムを通して地域との結びつきを大切にしてきた。教員も多忙なので焦点を絞って改革してゆく必要がある。 ・エンパワメントスクールになる中、デュアルシステムを形骸化させてはならない。 ・学校側から、来年度はデュアル実習・エンパワメントスクール発表会は学年規模で実施したい旨、提案があった。</p> <p><b>臨時協議会(2/16)</b>(デュアル実習について) ・生徒たちは厳しい中で学んでいる。布施北高校はそれを後押しする教職員や地域の努力が素晴らしい。今後もデュアルを軸にしたエンパワメントスクールを継続してゆくべき。 ・「地方創生に資する高等学校改革」として、国が予算を付けて動き出している。来年度はこのような事業を活用し学校と地域のマッチングを行ってほしい。 ・学校と地域をつなぐコーディネーターの配置検討を要望する。【提言】</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習活動の充実	<p>(1) 生徒が集中して学習に取り組める学習環境の整備</p> <p>(2) 生徒が「わかった」「楽しい」と思う主体的な学びを成立させる教職員の授業力の向上</p> <p>(3) デュアル関連科目における授業内容の充実</p>	<p>(1) ア 授業中の「五大規律」を一致して指導し、「授業こそが生徒指導の場面」として落ち着いた授業環境を作る。 イ 1年生の国数英モジュール授業の習熟度別授業を通して分かる楽しさを体験させ、基礎基本の学力を身につけさせる。 ウ ユニバーサルデザインの視点から生徒が集中し落ち着いて取り組める学習の取組みを進める。 エ ICT活用をさらに充実させる。</p> <p>(2) ア エンパワメントタイムをはじめとした参加体験型授業を増やす。 イ 授業公開週間を設定し、授業の工夫を教職員が互いに学び合い授業研究できる機会を持つ。 ウ 教科を中心としてテーマを定めた授業研究を行う。</p> <p>(3) ア 2・3年生のスムーズな実習の遂行 イ 外部講師によるデュアル関連科目の教育内容の充実</p>	<p>(1)(2) 昨年度比較 ・生徒学校教育自己診断における授業満足度肯定的評価 50%以上 (H29年度 49.5%) ・長期欠席者数をH29より減少 (H29年度 112名) ・中途退学者率 10%以下継続 (H29年度 8.8%) ・生徒学校教育自己診断「ICT活用している」肯定的評価 80%以上 (H29年度 62.9%)</p> <p>・教職員学校教育自己診断「指導方法の工夫改善」「授業方法について検討する機会」4点中のポイントをアップ (H29年度 2.78P)</p> <p>(3) ・実習出席率 90%以上継続 (H29年度 93.5%)</p>	<p>(1)ア 昨年度に引き続き一致した指導ができている。 イ・ウ・エ 1年生の国数英モジュール授業の習熟度別授業を実施。昨年度よりも授業の満足度が向上した。ICTも活用し、視覚的に分かりやすい授業が実践できている。 ・生徒学校自己診断における授業満足度肯定的評価 60.2% (H30年度 49.5%) (◎) ・長期欠席者数は減少した。74 (◎) ・中途退学者は減少した。5.1% (○) ・生徒学校教育自己診断「ICT活用している」肯定的評価 72.8% (H29年度 62.9%) (△)</p> <p>(2)ア エンパワメントタイムでは、参加体験型授業を行った。(生徒学校自己診断1年肯定的評価 83.9%) イ 授業公開週間に加え、1年生の授業を全教員とエンパワメントスクールの教員間で授業研究できる機会を設定した。 ・教職員学校教育自己診断「指導方法の工夫改善」「授業方法について検討する機会」4点中のポイントをアップ 2.93←2.78 (○)</p> <p>(3)ア 2年生のデュアル実習参加者が130名を超える大人数であったが無事終わることができた。実習出席率 94.0%</p>
2 人権教育を基盤とした魅力ある学校づくり	<p>(1) 一人ひとりの生徒をしっかり把握し高校生活に定着させるための生徒指導の充実</p> <p>(2) 生徒を受け止める教育相談の機能充実</p> <p>(3) 生徒の居場所となる魅力ある学校づくり</p> <p>(4) 人権教育の推進</p>	<p>(1) ア 頭髪指導や服装指導、遅刻指導による規範意識の醸成 イ 1年生を複数担任制にすることで、きめ細かな生徒把握・生徒対応を行う。 ウ 丁寧な家庭連絡や家庭訪問により保護者との連携を図り、学校行事への参加やPTA活動への参加を呼び掛ける。 エ 随時迅速な中高連携と中高連絡会の開催や全教員による中学校訪問を実施する。</p> <p>(2) ア 生徒の状況把握に努めるとともに、困難な課題を抱える生徒への教育相談や生徒支援体制を充実させるとともに、新たな担当窓口を設置してスクールカウンセラー(SC)及びスクールソーシャルワーカー(SSW)と連携を強化し、要配慮生徒のケース会議を開くなど、生徒支援を充実させる。</p> <p>(3) ア 部活動や生徒会活動を活発にし、活動状況を校内モニターやホームページ(HP)を活用して校外に発信する。</p> <p>(4) ア 生徒対象の人権学習を発達段階に応じ系統的・計画的に実施する。 イ 人権教育やカウンセリングマインド生徒指導、障がい理解等をテーマとした教職員研修を実施する。 ウ 中国等帰国生徒及び外国人生徒のアイデンティティを大切にしつつ、ともに学ぶ教育を推進する。</p>	<p>(1)(2)(3) ・長期欠席者数をH29年度より減少 (H29年度 112名) ・中途退学者率 10%以下継続 (H29年度 8.8%) ・欠席延人数をH29年度より減少 (H29年度延 11,273名) ・遅刻延べ人数をH29年度より減少 (H29年度 12,612名)</p> <p>(2) ・生徒学校教育自己診断「悩みや相談に応じてくれる」評価をH29年度(58.2%)よりアップ ・支援体制の整備</p> <p>(3) ・生徒会活動・部活動の活性化と発信 ・部活動加入率をH29年度(34%)よりアップ</p> <p>(4) ・教職員研修の充実 (年間4回以上)</p>	<p>(1)ア・イ・ウ 規範意識の醸成を行い、基本的生活習慣の確立の取り組みが進んでいる。 エ 中高連絡会を実施し中学校との連携を進めた。年間を通じて中学校訪問を行った。(中学校訪問延べ 294回←289回) (○) ・長期欠席者数が減少した。74 (◎)(再掲) ・中途退学者数が減少した。5.1% (○)(再掲) ・欠席者数が大きく減少した。7929人 (◎) ・遅刻者数が大きく減少した。6789人 (◎) ・保護者学校教育自己診断「学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」のポイントが下降した。2.71←2.79 (△)</p> <p>(2)ア 生徒相談委員会の機能が充実しケース会議の回数が増加した。 ・生徒学校教育自己診断「悩みや相談に応じてくれる」評価が向上した。63.2% (○) ・今年度、ES 校長会・相談部会を立ち上げた。(○)</p> <p>(3)ア 部活動に参加する生徒が増加し、ホームページでの発信回数も増えた ・部活動加入率は横ばいだった。34% (△) ・ホームページのブログ更新 110回 (○)</p> <p>(4)ア 人権学習は計画通り進めた。緊急に指導が必要な場面があったが、学年集会を行い丁寧かつ迅速に対応できた。(○) イ 職員研修は、SCによる「生徒理解」、「部活差別問題」、「地元地域理解」、「新指導要領」について実施した。(○) ウ 外国ルーツを持つ生徒対応は、人権教育部を中心に対応できた。(○)</p>
3 キャリア教育・進路指導の充実	<p>(1) 三年間を見通した体系的なキャリア教育の取組み</p> <p>(2) 進路指導の取組み</p> <p>(3) 地域等との連携強化</p>	<p>(1) ア 1年時よりキャリア教育の充実のために職業適性検査、インターンシップ、進路説明会、社会人講話や、企業・専門学校・大学など見学や体験の機会を設け、生徒個人々の進路設計への意識を高める。</p> <p>(2)(3) ア 進路決定及び定着のための取組み継続 イ デュアル実習連携企業・施設の拡大 ウ 中小企業家同友会との連携 エ デュアルシステムでの連携企業・施設等の地域交流を促進する。 オ キャリア教育コーディネータを活用した取組み継続</p>	<p>(1)(2)(3) ・進路未定率 15%以下継続 (H29年度 13.3%) ・学校幹旋就職内定率 90%以上継続</p> <p>(3) ・デュアル実習実施に対する事業所の評価アンケートの実施</p>	<p>(1)ア 1年次よりキャリア教育を充実し、2年次には大学訪問・分野別説明会を実施した。2年生のデュアル実習選択者数は過去最高の130名を超える大人数であったが、大きなトラブルもなく無事終わることが出来た。 ・1年次の2日間のインターンシップ参加率 95%、生徒の肯定的意見 91.9% ・進路未定率 17.4% (○)(3/6 現在) ・就職内定率 98.8% (○)</p> <p>(2)(3)ア 3年生進路決定の取り組みは計画通り行えた。 イ 新規事業所は、多くの教員が開拓にまわり新たに74事業所(インターンシップ 29社、デュアル実習 45社)が開拓できた。(○) ウ 中小企業家同友会の研修会に参加し、連携を深めた。(○) エ CCの活用は例年通り行い、生徒の進路指導に成果があった。(○)</p>

## 府立布施北高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 改編期の教育活動の充実と 完成期へ向けての積極的な 情報発信</p>	<p>(1) 改編期における3学科の教育活動を等しく充実させる</p> <p>(2) 積極的な情報発信</p>	<p>(1)</p> <p>ア 1・2年生のエンパワメントタイムのスムーズな運営</p> <p>イ 3年生の普通科及びデュアル総合学科の教育活動の質を落とすことなく充実させる。</p> <p>ウ 働き方改革につなげる環境整備</p> <p>(2)</p> <p>ア 中学校及び中学生、保護者向けにエンパワメントスクールの教育内容と魅力について発信する。</p> <p>イ HPの発信内容充実</p> <p>ウ PTA・同窓会の通信の充実</p>	<p>(1)</p> <p>アイ 生徒学校教育自己診断における授業満足度及びデュアル実習満足度の維持向上</p> <p>H29年度 (授業満足度 49.5%) (デュアル実習満足度 83.3%)</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学想定区域(旧5学区中北部周辺、大東市、平野区北部等)中学校全校訪問継続</li> <li>・HPにおける情報発信の工夫</li> </ul>	<p>(1)ア エンパワメントタイムの充実は多大な労力が必要であった。エンパワメントタイムの研修を本校で行い、他のESの教員と研究協議を行った。1年エンパワメントタイムにおいて特別非常勤講師活用を行ったが、労力が多く来年度も150時間活用を実施できるかが課題である。</p> <p>イ 3年生の普通科およびデュアル総合学科の教育内容の充実は十分とは言えなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業満足度 49.3% (△)</li> <li>・デュアル総合学科の実習満足度 83.9% (○)</li> </ul> <p>(2)アイウ エンパワメントスクール教育内容発信のため、学校説明会、中学校訪問、HPの充実等で情報発信ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校説明会参加者 695人←452 (○)</li> <li>・中学校訪問延べ 294校 (○)</li> <li>・HPブログ発信回数 110回 (○)</li> </ul>
---	---	--	---	--